

## 令和7年度 第3回 碧南市地域自立支援協議会 会議録

### 1 日時

令和8年2月27日（金）午前10時から午前11時30分まで

### 2 場所

へきなん福祉センターあいくる デイルーム

### 3 出席者

#### (1) 委員 17名

碧南市社会福祉協議会 中川 英治（委員長）

碧南市手をつなぐ育成会 三浦 志朗（職務代理）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市民生委員児童委員協議会 新美 達夫

NPO法人ハートフルあおみ（あおみJセンター所長）水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 辻 辰憲

愛知県立にしお特別支援学校 早川 浩史

親子の会「カラフル」 鈴木 由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」 永井 美幸

ほっとまんまピアサポーター 杉浦 有美

碧南商工会議所 山本 直仁

スギ製菓株式会社 永坂 峰広

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 川村 顕治

刈谷病院 水野 美香

サンフレア 高松 有美

就労センターオアシス碧南 中根 祐子

WHJ相談支援センターメビア 浅野 将克

#### (2) 事務局

福祉こども部長 伊藤 正博

福祉課長 磯貝 浩

福祉課社会福祉係長 山本 昌弘

福祉課社会福祉係主事 畠山 和也

福祉課社会福祉係主事 矢野 友也

#### (3) 基幹相談支援センター（碧南市社会福祉協議会）

地域福祉課地域福祉係長 古川 裕隆

地域福祉課地域福祉係主査 小島 誠司

地域福祉課地域福祉係主事 坪井 優佳  
地域福祉課地域福祉係主事 長谷川 祥子  
地域福祉課地域福祉係主事 天野 好美  
地域福祉課地域福祉係主事 久村 明弘  
地域福祉課地域福祉係主事 角谷 有花  
地域福祉課地域福祉係主事 大野 聖士  
地域福祉課地域福祉係主事 田島 十和

#### 4 傍聴者

なし

#### 5 議題

- (1) へきなん障害者ハーモニープランの進捗状況について
- (2) 各作業部会の取組状況について
- (3) その他

#### 6 議事の要旨

- (1) あいさつ
- (2) 議題

ア へきなん障害者ハーモニープランの進捗状況について  
事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

委員：通級指導教室の利用者は何人程いるのか。

事務局：詳細な数値は不明である。

会長：令和7年10月に創設された就労選択支援について、事業所として、実務における課題等があれば共有してほしい。

委員：就労選択支援の利用を形骸化させない運用を考えていかなければならない。本人の意思決定を支援することが課題である。

委員：アンケート調査の項目において、利用したいサービスの内容を障害者総合支援法のサービスのみではなく、そのほかのサービス内容も組み込んでいただきたい。

事務局：障害者総合支援法のサービス以外のサービスについても、全体の分量を考慮して検討したい。

イ 各作業部会の取組状況について

各作業部会の代表及び基幹相談支援センターが会議資料に基づき説明し、その後審議した。

## <主な意見・質疑>

会 長：最近の医療機関への入院患者数の増減や傾向はどのような状況か。

委 員：最近 グループホームが増加していることにより、長期入院者のグループホームの入居が進んでいる。よって、入院患者が減少傾向にある。医療機関を利用する患者の年齢は幅広く、中には中学生の患者の入院相談を受けることもある。

## ウ その他

事務局より次年度の会議日程について報告。

## 7 まとめ

学識経験者（日本福祉大学 青木聖久 教授）より、総括として以下の4点の話があった。

### 1 インフォームドチョイス

インフォームドチョイスというのは複数の選択肢が説明され、その中から自分が選ぶという意思決定である。様々な世界の情報に触れることで、新たな世界を知ることができる。

### 2 地域包括ケアシステム

誰でも暮らせる地域生活を目指して、どのような地域生活拠点を作っていくか。その際に力を発揮するのは自治体独自の条例である。工夫をして、碧南独自の地域包括ケアシステムを作してほしい。

### 3 地域の事業所の力

全国的に精神科病院の稼働率は減少傾向にある。地域の事業所の力により、入院患者が地域生活を送ることができる。支援者が本人の姿を知ることによって支えることができる。

### 4 知ることの積み重ねによる不安の払しょく

様々な立場ストレス、不安はなくなる。情報や価値観を共有することや情報を知ることによって不安が小さくなる。どんな制度があるか、使える制度は何か。いろんな情報を活用して意思決定支援を行ってほしい。

以上